

平和への誓い新たに



広島平和学習の成果を足立市長へ報告後、記念撮影した参加者

戦争の悲惨さと平和の大切さを、戦争を知らない世代に学んでもらい、多くの皆さんに伝えてもらうため、8月5日、6日の2日間、城南城北の各中学校から選抜した10名が「広島平和学習」に参加しました。

参加した中学生は、「平和記念資料館」の見学や「平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式）」への参列を通じ、平和について多くのことを学びました。参加した皆さんの感想文を一部要約して紹介します。

山崎 南（城南中学校）

「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」の言葉が刻まれた慰霊碑を目の当たりにして、その言葉の重さに圧倒されました。戦争犠牲者に対して誓ったこの言葉は、世界全体の誓いでなければならないと強く感じました。

原爆ドームや平和記念資料館に展示されている目をそむけなくなる資料の数々は、本来人目にさらされるべきではなく、遺族も一切忘れ去りたいものだと思います。あえて展示しているのは、平和の大切さを訴えたいからなのではないでしょうか。

世界には戦争や核実験の過ちが繰り返されています。先進国のなかですら核を保有することで平和が保たれていると考えている国もあります。それが本当の平和と言えるでしょうか。人は核を発明する能力はあるのに、それを戦争に使用してはいけないという単純な考えをなぜ持てないのでしょうか。

これまで、平和について深く考えることはありませんでしたが、実際に見たり聞いたりすることで、平和について考えることができるようになった気がします。多くの人に広島を訪れてもらい、慰霊碑の言葉を噛み締めてほしいと思います。

大塚有紗（城南中学校）

多くの人でにぎわい、車やバスが走り、たくさん的高層ビルが建っている現在の広島の姿は、66年前に原爆が落とされたことが嘘のようでした。その中で、今なおひどい傷跡を残し当時の悲惨さを語っていた原爆ドームでは、原爆の恐ろしさを肌で感じる事ができました。

平和記念式典は、暑い太陽のもと青空が広がり、66年前と同じ天気だと聞きました。

平和があたり前になっている今、小さなことに腹を立てたりしていましたが、志半ばで一瞬にして命をなくした人たちに恥ずかしくないよう、今を生きなければならぬと感じました。

私の周りでは平和について関心を持っている人は少ないと思います。広島に行ってみて学んだ私でも、まだまだ学べき事はたくさんあると思います。もっと戦争について学ばなければいけないし、広島で吸収してきたことを多くの人に伝えていきたいと思っています。

家塚みのり（城南中学校）

今回の広島訪問は、生涯忘れられない貴重な経験となりました。

平和記念資料館では、原爆が投下された8時15分で止まった時計が、私に何か訴えかけたような気がしました。あれは人生をめちゃくちゃにされてしまった広島の人々の思いだったのだと思います。ほかにも悲惨な展示物があり、皆に伝えようと写真撮ろうと思いましたが、原爆で焼けただれた人の模型だけは、想像を絶するリアルさに、怖くて撮ることができませんでした。

世界67カ国が参列した平和記念式典では、広島市議会議長や松井広島市長が、核と人が共存することの困難さを宣言しましたが、世界では現在でも核実験が繰り返されており、核廃絶への長い道のりを実感しました。「核と人類が共存する世界」ではなく「自然と人類が共存する地球」になってほしいと思いました。

今回感じたことを、日常や文化祭などで多くの人に伝えていきたいと思っています。

小野澤 夢樹乃（城南中学校）

平和学習では、66年前に広島で起こった悲劇を知り、普段の生活ではあまり感じない平和の大切さを知ることができました。

特に印象的だったのは、平和記念資料館で原爆が投下されてからの日数と最後に核実験が行われた日からの日数をカウントしている平和監視時計です。わずか4ヶ月ほどしか経過していない核実験からの日数に、世界にはいまだに核実験が続けられていることに驚きました。

2日目の平和記念式典では、海外からの人も多くいて、平和への思いが広がっていることも実感できましたが、世界では戦争を繰り返している国もあります。私達は戦争体験はありませんが、戦争の悲惨さは伝えることができます。唯一の被爆国の国民として、戦争や核の悲惨さを世界へ伝えて、少しでも世界の平和に役立つことができたらいいと思いました。

山崎京香（城南中学校）

私の心に一番響いたのは、広島市長の平和宣言「こんな思いを、ほかの誰にもさせてはならない」という言葉です。

平和記念資料館で見た原爆投下前の広島の様子は、住宅がたくさんある普通の街でしたが、原爆投下後は多くの建物が原型を止めず焼かれている様子から、原子爆弾がどれほど大きな被害をもたらしたかを知ることができました。また、戦争が終わってからも放射線による様々な健康被害に苦しめられた人がたくさんいることを知り、二度と戦争を起こしてはいけないと強く感じました。

世界には核兵器を保有している国がありますが、平和記念式典に参列した国や人の多さから、核の無い平和な世界を願っている人が多くいます。私も身近な人に学んだことを伝えたいと思います。

渡邊咲奈（城北中学校）

平和学習1日目は、「てつのかじら館」「大和ミュージアム」を見学し、戦争体験の話を書くなど戦時中のことを学び、平和記念資料館では、原爆について学びました。資料館で1番印象に残ったのが原爆の熱線をあびて皮膚が溶けた親子の像です。たった1個の原爆で、広島に大きな被害をもたらし、多くの人たちにどんなに辛く、苦しく、悔しい思いにさせたのかと、私自身も悔しい思いになりました。また、アメリカに対して怒りの気持ちもわいてきました。

平和記念式典では、戦後66年たった今でも苦しんでいる被爆者の人たちがいました。その人たちのためにも、二度と戦争はやるべきではないと思いました。

今回の体験を今後活かして多くの人たちに戦争の悲惨さを伝え、自分でも理解を深めたいと思います。

月岡雛乃（城北中学校）

私が平和学習に参加した理由は2つあります。1つは原爆が投下された広島で、その恐ろしさや平和の大切さを感じてきたかったから。2つには東日本大震災により福島第一原発の事故が起こったことがあります。

平和記念資料館では、原爆の原理や被爆後の様子などを見て、同じ日本人が体験した事実に言葉を使い、涙が出てきました。こんな悲惨な戦争をどの国も起こしてはいけないと強く感じました。

戦争は、憎しみや怒りが大きくなった殺意の拡大だと思っています。怒る気持ちを無くすのは無理ですが、その気持ちを武力では無く、言葉などで和解の心に変えて「戦争」という言葉が世界から消え、平和で明るい世界になることを祈ります。

石田夏美（城北中学校）

広島平和学習に参加して心に残っていることが2つあります。

1つは、平和記念資料館です。原子爆弾で被爆した実物や模型、爆風で壁にガラスが突き刺さっているもの、放射線によって抜けた毛髪や三輪車、服などが遺族の提供により展示されていて、それら悲惨な現実は今でも頭に残っています。

2つは、多くの皆さんが参列した平和記念式典です。式典での言葉に「その秋、75年は草木も生えないといわれた広島で新しい芽が芽吹きました。焼け跡によみがえった緑に、人々は生きる勇気と希望をとりもどしました」とあり、言葉では言い表せないほど感動しました。

この学習で戦争や原爆のことをたくさん知ることができ、参加して本当に良かったです。これらのことを大勢の人に伝えていきたいと思っています。

兼子優花（城北中学校）

平和学習に行くとき決意した時は不安でしたが、広島の人々が感じた苦しみや悲しみを感じたいと思い決心しました。

参列した平和記念式典では、小学生が平和を願う作文を朗読しました。私がそうであったように、参列した多くの国や人も悲惨な戦争が無くなってほしいと思っていたと思います。

式典に参加した前日に訪れた平和記念資料館では、原爆の被害を伝える写真や展示を見て、あまりの悲惨な光景に、明るかった広島が、一気に暗くなった気がして、この事実を受け止めることが今やとどけるようになりました。この経験を通じて、1人でも多くの人にこの事実を知ってもらい、平和の意味を深く考えてもらいたいです。戦争が無くなり、平和であることを願いたいと思います。

小嶋 春（城北中学校）

原爆が始めて落とされた日本。たった1個の原爆、それも原爆実験により広島は焼け野原となり、罪の無い人たちが焼き殺されてしまいました。その悲劇を招いた戦争は、さまざまな悲劇を繰り返した結果だと思いました。

平和記念式典に出て一番心に残ったのは「核と人類は共存できない」という広島市長の言葉で、東日本大震災による福島第1原発の事故にも似ていると思ったからです。原子力から自然エネルギーへと変えていくべきだと思いました。

今でも原子爆弾は作り続けられています。世界で一番原爆の恐ろしさが分かっている日本は、平和祈念式に参列した多くの方が望むように、平和を訴え続けるべきだと思いました。私が平和学習で学べることは、2度と同じ悲劇は繰り返してはいけないということです。

平成 23 年度
飯山市戦没者・開拓殉難者
追悼平和式典の開催について

【お問い合わせ】保健福祉課 社会福祉係 ☎ 62-3111 内線 172

市では、平成 23 年度飯山市戦没者・開拓殉難者追悼平和式典を開催します。

この式典は、飯山市社会福祉協議会が中心となり行ってきた慰霊法要・慰霊祭を、飯山市主催として実施しているもので、ご遺族ならびに一般市民の皆様のご参列をいただき開催するものです。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

■日時 10月20日(休) 午後3時～
 ■場所 飯山市民会館

第 39 回
差別のない明るい飯山市を築く市民大会

【お問い合わせ】人権政策課 人権同和係 ☎ 62-3111 内線 370

今大会の講師は、2歳半で失明し、現在大学講師をはじめ、多方面において活躍されています。障がいのある人もない人も、障壁に関心を持ち、「話したい」「コミュニケーションをとりたい」という、人間の自然な感覚（バリアオーバー）を大事に考え、お互いに認め合い、支え合い、生きていくことの意味をお話していただきます。人権について考えるよい機会ですので、お問い合わせのうえご参加ください。

■日時 10月29日(土) 午後1時30分開会
 ■会場 飯山市民会館 かまくらホール（入場無料）
 ■講演 「コミュニケーションなくして人権なし
 一権利と義務のコミュニケーション学」
 講 師 明治大学政治経済学部、立教大学、
 相模女子大学の兼任非常勤講師 堀越喜晴 さん

■演奏 山崎 浩さん、沼田秀美さん
 ■展示 小中学校児童・生徒による人権啓発・ポスター・作文等
 ■主催 差別のない明るい飯山市を築く市民大会実行委員会、飯山市、飯山市教育委員会